

講義コード	1116230003
講義名称	経営学B 03<秋>
科目英文名	Business Management B
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	BUSA1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
三輪 卓己

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 企業の人事スタッフ，ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。
------	----	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)	プレゼンテーション(発表)

講義・演習概要	経営学は企業などに代表される組織のマネジメントについての学問である。市場において競合企業と戦い，利益を得るためのマネジメントだけでなく，組織活動を通じて社会に貢献し，そこで働く(関与する)人の幸福を追求するマネジメントを考えることが大きな特徴である。現代社会ではほとんどの人が何らかの組織活動に参加しており，そこにおいて生活の基盤を築いている人も多い。経営学はそれらすべての人たちに有益な学問であるし，これからの社会を考えるうえでも重要な学問だと言える。 この講義では特に，組織と人をどう動かすかというテーマに焦点を当てた議論を行う。
学習（到達）目標	1.経営学に関する基礎的な用語と理論を理解し説明できる。 2.具体的な企業の活動を経営学の用語や理論を使って説明できる。 3.経営学の基礎用語や理論を企業の事例を使って説明できる。 4.マクロ組織論の基礎的な用語と理論を理解し説明できる。 5.ミクロ組織論の基礎的な用語と理論を理解し説明できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	組織と人のマネジメント 実際の企業活動を支えるチームや個人をどう動かすのか，そのための具体的な企業の活動やそれに関する基本的な理論について解説する。
第2回	モチベーション（内容理論） 働く人の動機づけについて、「人は何に動機づけられるか」(=欲求)を重視した理論を学習する。
第3回	モチベーション（過程理論） 働く人の動機づけについて、「人はどのように動機づけられるか」(=プロセス)を重視した理論を学習する。
第4回	組織コミットメント 働く人が組織に対して持つ愛着や一体感について学び，それを活かしたマネジメントについて展望する。
第5回	ケーススタディ(組織コミットメント) 組織コミットメントの意義と弊害について実例を通して学ぶ。
第6回	組織市民行動 働く人が組織に対して無償で行う献身的な行動について，それがなぜ起こるのか，またその意義や効果は何か，について学習する
第7回	心理的契約 働く人と雇用する組織の間に形成される心理的な(言語化されない)契約について学び，それが履行されない場合の問題等について議論する。
第8回	組織とストレス 組織の中にあるストレスとその対処方法について学習する。
第9回	ケーススタディ(ストレス) 感情労働の現場にあるストレスや，その対処方法を議論する。

第10回	プロフェッショナリズム 高度な専門性と自律性を持つプロフェッショナルの特性と、そのマネジメントについて学習する。
第11回	リーダーシップ 組織の中のリーダー行動について、仕事志向と人間志向という二つの行動に着目する古典的な理論を学ぶ。
第12回	変革型のリーダー 近年重要になってきている組織を変革するリーダーの行動特性について学ぶ。
第13回	ケーススタディ(リーダーシップ) 実際に企業を変革したリーダーの考え方や行動とその意義を学ぶ。
第14回	これからの社会のキャリア これからの知識・情報社会におけるキャリアが工業化社会とどう異なるのかを学ぶ。
第15回	まとめ 全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	レポート(最終レポートと各回の小レポート)とケーススタディでの発表を中心に評価する。 それに授業中での発言や質問等による加点を行う。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	開本浩矢編著	ベーシック+組織行動論	大学オンライン販売	978-4502295614	中央経済社	

	第1回 (事前学習)テキスト第1章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第2回～第3回 (事前学習)テキスト第2章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第4回 (事前学習)テキスト第3章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第5回 (事前学習)事前にM-PORTに示される課題に取り組むこと (事後学習)ケースでの学びに関連する理論をテキスト等で振り返ること 第6回 (事前学習)テキスト第6章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第7回 (事前学習) 講義の中で指示する資を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第8回 (事前学習)テキスト第7章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第9回 (事前学習)事前にM-PORTに示される課題に取り組むこと (事後学習)ケースでの学びに関連する理論をテキスト等で振り返ること 第10回 (事前学習)テキスト第16章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第11回 (事前学習)テキスト第9章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第12回 (事前学習)テキスト第9章，第11章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
事前および事後学習の指示	

	第13回 (事前学習)事前にM-PORTに示される課題に取り組むこと (事後学習)ケースでの学びに関連する理論をテキスト等で振り返ること 第14回 (事前学習)M-Portで指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第15回 (事前学習)M-Portで指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	モチベーション，コミットメント，リーダーシップ，人的資源管理。キャリア開発
備考(管理者用)	(旧：経営学) 02～19生読替

<社会人の方へ> 事前に公開する授業資料を見たうえで参加してください。

講義コード	1116530004
講義名称	心理学B　04<秋>
科目英文名	Psychology B
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0PSY2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
中村　隆行

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	この授業では、「現代の心を取りまく課題と心理的支援」について概説する。 教育や臨床の場面では、さまざまな心の問題に対処するため、心理学理論を応用して研究開発された「心理的支援」に関する理論と技法が利用されている。現代の心の問題と心理的支援の実際について、「現代の心を取りまく課題」「日常生活と心の問題」「心理学的アセスメント」「カウンセリングと心理療法」の観点から基礎的知見と研究成果を概観し、現状と課題および展望について考察する。
学習（到達）目標	・現代の心を取りまく課題と心理的支援の実際について理解している。 ・日常生活と心の健康との関係を理解している。 ・心理学理論と心理的支援の技法を応用して、さまざまな心の問題を探究し適切な対応策を考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：現代の心の問題と心理的支援
第2回	現代の心を取りまく課題①：脳と心
第3回	現代の心を取りまく課題②：アタッチメントの形成とその障害
第4回	現代の心を取りまく課題③：発達障害
第5回	現代の心を取りまく課題④：発達障害児への教育的支援
第6回	現代の心を取りまく課題⑤：児童虐待問題とその対策
第7回	日常生活と心の問題①：ストレスとメンタルヘルス
第8回	日常生活と心の問題②：心理病理と精神疾患
第9回	心理学的アセスメント①：アセスメントの基本的考え方
第10回	心理学的アセスメント②：アセスメントの実際
第11回	カウンセリングと心理療法①：カウンセリングの理論と技法
第12回	カウンセリングと心理療法②：精神分析療法
第13回	カウンセリングと心理療法③：行動療法
第14回	心理的支援の課題と展望
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	小テストを10回行い、その中央値で評価する
---------------	-----------------------

参考文献	・加藤伸司・山口利勝（編著）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房 ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣アルマ
事前および事後学習の指示	・毎回講義終了後、その回の重要事項復習ようとして確認問題を配布する。次回講義まで必ず仕上げておくこと。 ・講義で学習したことが、日常生活でどのように応用できるか考えてみること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：心理学）02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	14D4720000
講義名称	公共経済論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Public Economy Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2545
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
西崎　勝彦

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	市場経済では財・サービスが市場で取引され、市場を通じて財・サービスが生産・消費される。市場経済では「見えざる手」によって財・サービスが適切に配分されると考えられてきたが、市場は万能ではなく、ときに「失敗」することもある（例、規模の利益による自然独占）。また、市場は「価格メカニズム」とも呼ばれるが、価格がうまく決まらない財・サービス（例、公共財）は市場での取引が難しい。こうした市場の失敗や市場での取引が困難な財・サービスの生産・消費を分析するための学問が公共経済学である。この授業では公共経済学の基礎について説明し、市場経済における公共部門の役割について考える。 この授業では、前年度以前に開講した「公共経済論Ⅰ」の内容は理解しているものとして、そこで扱わなかったテーマ（投票、費用・便益分析、課税・公債発行、自然独占、公共料金規制、公共投資、社会保障、地方分権）について説明する。説明はスライドを使った講義形式で行う（スライドは授業資料として履修者に配布する）。履修者にはいくつかの授業で課題（計算問題を含む）に取り組んでもらい、その解答を提出してもらう（授業の最初に前回の課題を解説する）。
学習（到達）目標	(1) 公共部門の意思決定の仕組みを理解する。 (2) 公益事業の成立とそれへの規制を理解する。 (3) 公共投資が社会に与える影響を理解する。 (4) 高齢化社会における公共部門の役割を理解する。 (5) 地方分権の意義を理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業内容の説明および公共経済学の概説
第2回	社会的決定
第3回	社会的費用・便益分析
第4回	税と公債
第5回	規模の利益と自然独占
第6回	自然独占と競争
第7回	公的企業と料金規制
第8回	私的企業と料金規制
第9回	社会資本と公共投資
第10回	地域格差と公共投資
第11回	所得再分配政策と社会保障
第12回	高齢化と公共交通
第13回	地方分権
第14回	公共経済学の展開
第15回	授業内容の総括

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	第2-13回の授業内で毎回課題（短答式，計算問題を含む）を出す（上記「その他」に該当）。対面授業を基本とし，授業の残り20分ほどで課題に取り組んでもらい，その解答を任意の用紙に記入して写真に収め，その写真データを授業日の翌日までにWebClass経由で提出してもらう（Wordファイルなどその他の電子媒体でも構わない）。 第13回の授業が終わった段階で，いくつかの授業に関するレポート課題を履修者に無作為に割り当て（履修者によってレポート課題が異なる場合がある），そのレポート（論述式）をWebClass経由で提出してもらう（上記「レポート」に該当）。 授業内の課題およびレポート課題の詳細については第1回の授業で説明するので，履修者は必ず確認すること（授業に出席できなかった場合は担当教員に問い合わせること）。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	奥野信宏	公共経済学 オンデマンド版	大学オンライン販売	9784007310393	岩波書店	本書に基づいてスライドを作成し，それを授業資料として履修者に配布する。

参考文献	緒方隆，須賀晃一，三浦功〔編〕（2006）『公共経済学』勁草書房。 岸本哲也，入谷純〔編〕（1998）『公共経済学』八千代出版。 須賀晃一〔編〕（2014）『公共経済学講義－理論から政策へ－』有斐閣。 ジョセフ・E・スティグリッツ／藪下史郎〔訳〕（2003）『公共経済学』東洋経済新報社。 常木淳（2002）『公共経済学 第2版』新世社。 土居丈朗（2018）『入門公共経済学 第2版』日本評論社。
事前および事後学習の指示	新聞やテレビなどで取り上げられている，日本政府や地方自治体が関係している経済ニュースに目を通すなどして，問題意識を持つことで公共経済学への理解を一層深めてもらいたい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：公共経済論）02～10生読替（E・CBCC・J生のみ）

講義コード	15D0930000
講義名称	市民社会とメディア　＜秋＞
科目英文名	Civil Society and Media
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC3490
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
本郷　正武

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	市民社会とはどのような社会なのか。市民社会を成り立たせるために必要な条件とは何か。本講義では、市民社会の成り立ちについておもに医療をめぐる社会運動（論）の観点から検討する。なお、秋学期開講の社会運動論を履修済み（同学期に履修中）であること、医療社会学に関心があることが講義内容の理解の点から望ましい。
学習（到達）目標	市民社会論および医療社会学、社会運動論の分析概念や基本的な考え方を身に付けることで、人々の連帯とそのはたらきについて考えることができるようになることを目標とする。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション：市民社会論の検討
第2回	近代社会の成立
第3回	「第二の近代」
第4回	新しい市民社会論（１）：国家と市民社会
第5回	新しい市民社会論（２）：市民的公共性
第6回	ポピュリズムと陰謀論
第7回	ナショナリズム
第8回	排除と隔離（１）：ハンセン病療養所
第9回	排除と隔離（２）：隔離の論理
第10回	排除と隔離（３）：脱施設化と脱制度化
第11回	地域からの遊離（１）：水俣病の「被害」
第12回	地域からの遊離（２）：運動の担い手
第13回	地域からの遊離（３）：受益圏・受苦圏論
第14回	熟議デモクラシー（１）：コンセンサス会議
第15回	熟議デモクラシー（２）：ワークショップ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
----	-----

レポート	30%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	コメントペーパーの内容が優れている場合は加点する。
---------------	---------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	本郷正武・佐藤哲彦 編	薬害とはなにか：新しい薬害の社会学	学生独自購入	9784623095292	ミネルヴァ書房	

参考文献	長谷川公一編，2020，『社会運動の現在－市民社会の声』有斐閣。 濱西栄司ほか，2020，『問いからはじめる社会運動論』有斐閣。 上記の他にも講義中に随時紹介する。
事前および事後学習の指示	講義で紹介した概念や理論を駆使して、身の回りで起きた出来事や社会現象の謎解きをしてみることに。うまくいかない場合は、質問やコメントペーパーのかたちで言葉にしてみることに。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	市民社会、社会運動、近代化、医療
備考(管理者用)	(旧：社会運動論) 10～18SS・17～18SW生読替☆(旧：社会学特講－社会運動論) 02～09SS生読替

講義コード	16D0860000
講義名称	社会ビジネスの理論と実践Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Theory and Practice of Social Business II
開講責任部署	経営学部　経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA2500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
西藤　真一

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	春学期に実施した「社会ビジネスの理論と実践Ⅰ　＜春＞」に引き続き講義を展開します。秋学期のこの講義では、住民参画による協働・共創による社会課題の解決をキーワードとし、さまざまな地域振興のアプローチについて学びます。 近年、地域や社会が抱える課題の解決をミッション（使命）として、ビジネスの手法を用いて取り組むもの「ソーシャル・ビジネス」の取り組みが各地で見られるようになっていきます。そのような公益的な活動を行う組織としては従来からNPOがありましたが、寄付だけでは活動資金を賄えないという現実的な課題にも直面してきました。 一方、民間企業においても社会的責任（CSR）を全うするという視点から公益にも目が向けられてきました。国連でSDGsが提唱されるようになると、社会的な課題に企業自身が取り組むこと自体が企業の新たなビジネスチャンスをもたらすとも理解されるようになりました。さらに、住民も参画した、協働・共創（co-production）によって社会の様々な問題に対処しようという動きも加速しています。 このように、近年、従来、公共が担うべき役割とされた社会課題の解決には、NPOや民間企業、住民など様々なアクターがかかわっていることがわかります。そこで、本講義では社会課題をビジネスの手法で解決しようとする「ソーシャル・ビジネス」について、おもに3つの視点を提示しながら解説します。 ① 社会課題の解決に向けたアクターをめぐる議論の展開（福祉国家・NPMの展開） ② 社会的経済とサードセクターの役割（アクターの概念的整理） ③ わが国におけるソーシャル・ビジネスの展開（経緯・事業戦略）
学習（到達）目標	学習到達目標 1. 社会課題の存在に取り組む主体とその役割について理解できる 2. 地域の抱える課題にどのような取り組みがあるか把握できる 3. 社会課題に対する取り組みとしてどのような課題が残されているか理解できる

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション：地域コミュニティとまちづくり（石原・西村「まちづくりを学ぶ」序章）
第2回	ソーシャル・エンタープライズとは何か
第3回	社会課題解決に取り組む起業家とイノベーション
第4回	企業の社会的責任とソーシャル・エンタープライズの相違
第5回	SDGsにどう取り組むか
第6回	企業のフィランソロピーの実例
第7回	エシカル消費の拡大と企業の対応
第8回	中間テストと授業前半の総括
第9回	地域コミュニティの再構築
第10回	地域経済と雇用：人々の働き方の多様化
第11回	ソーシャル・キャピタルの存在とソーシャル・エンタープライズの関係
第12回	持続可能な観光と地域振興

第13回	不採算な地域公共交通をどう再構築するか
第14回	期末テストと授業後半の総括
第15回	地域振興と公共サービスの維持における課題まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	ほぼ毎回の授業で授業中課題として確認問題に取り組みます。習得した知識の定着を確認するため、中間・期末テストを2回ほど実施します。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	谷本寛治	企業と社会-サステナビリティ時代の経営学	学生独自購入		中央経済社	

参考文献	・谷本寛治（2020）『企業と社会-サステナビリティ時代の経営学』中央経済社。 ・切通堅太郎・西藤真一・野村実・野村宗訓（2021）『モビリティと地方創生-次世代の交通ネットワーク形成に向けて』晃洋書房。 ・谷本圭志・細井由彦（編著）『過疎地域の戦略-新たな地域社会づくりの仕組みと技術』学芸出版社。
事前および事後学習の指示	事前に資料を配布するので、資料に目を通してから授業を聴講すると理解が深まる。また、事後的にはほぼ毎回、確認問題を提示するので、真面目に取り組むこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	公共サービス，NPO，まちづくり，連携，地域振興
備考(管理者用)	（旧：情報化組織論）02～07B生読替☆（旧：情報組織論B）08～12生読替☆（旧：社会ビジネスB）13～20 B 生読替

<社会人の方へ>授業中に試験を実施します。

講義コード	1N06330000
講義名称	知的財産法B　＜秋＞
科目英文名	Intellectual Property Law B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW3450
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
関　　堂　　幸　　輔

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	人の知的活動に係る権利利益を保護し、行為を規制する法であるところの知的財産法は、今日の高度情報化社会においてとりわけ重要な制度です。知的財産法制は、わが国においては古く19世紀末から存しますが、現在に至るまで社会経済の変遷とともに大きな変貌を遂げており、また常に新しい問題を生じさせるものでもあります。 この授業と「知的財産法A」では、あくまで法学の観点から知的財産法制の論点を取り上げて講義します。特にこの「知的財産法B」は、「識別標識保護」または「信用保護」に係る法令（すなわち商標法、不正競争防止法等）を中心に扱います。
学習（到達）目標	上記「講義概要」に掲げた現代の問題を各自において認識し、それぞれに考察することが目標です。すなわち、一概に何を覚えればよいというものでもなく、画一的な答えを求められるものでもありません（もし「学習目標」としてそのようなものが求められているのだとすれば、この講義では無意味なことです）。そもそも最先端の技術やサービスが次々に提供される高度情報化社会にあって絶対に「正しい」ことなどなく、現在常識として行われていることが数年後に覆される可能性さえあるのです。それを理解して関連法制の問題を意識することこそ、この講義の学習目標であると言えます。 受講生に最低限要求されることは、知的財産に係る法令がどうなっているかを単に「知る」のではなく、法の趣旨・解釈・運用等について「考察」し、時に「疑う」ことなのだと認識することです。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	知的財産法総論：知的財産の意義・性質、法制の趣旨
第2回	識別標識保護制度の意義
第3回	商標法①：商標の意義、商標登録要件等
第4回	商標法②：商標権の内容
第5回	商標法③：使用権
第6回	商標権④：商標権侵害
第7回	不正競争防止法①：総論(1) - 制度趣旨等
第8回	不正競争防止法②：総論(2) - 利益侵害と救済等
第9回	不正競争防止法③：各論(1) - 商品等表示に係る不正競争
第10回	不正競争防止法④：各論(2) - ドメイン名および商品形態模倣に係る不正競争
第11回	不正競争防止法⑤：各論(3) - 営業秘密および限定提供データに係る不正競争
第12回	不正競争防止法⑥：各論(4) - 技術的制限手段に係る不正競争
第13回	不正競争防止法⑦：各論(5) - その他の不正競争
第14回	他の法令に係る知的財産権：パブリシティの権利等
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法 （コメント）	基本的には学期末に行う試験によって判定します。試験の方法等については講義の中で適宜告知をします。 また試験とは別に、毎回の授業でオンライン・コメントの入力を求めます。このコメントの内容を平常点として加算します。（上記「学習目標」にある「最低限の要求」をクリアした場合が合格となります。）
-------------------	---

参考文献	講義資料は担当者のウェブ（ http://www.sekidou.com/ ）に掲載してあります。また補助的にYouTube（ https://youtube.com/@sekikos ）に掲載する講義の動画を使用しますので各自参照してください。なお法学部の学生であれば当然ですが、最新の法令集を必携してください。
事前および事後学習の指示	本科目のような社会科学系にあつては、特定時期に特定の準備をすればよいというものでもありません。したがって、事前学習および事後学習に要する時間は各受講生によって異なります（標準的には、各授業回の内容について事前・事後それぞれ1時間から数時間を費やして理解を深めることが望ましい）。日々社会ないし経済で起こる出来事に注視し、そこに内在する問題を認識することが肝要ですから、そうした感覚をもってさまざまな事象を観察するよう心がけて下さい。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	法 知的財産 商標 不正競争 情報 メディア コンテンツ
備考 （管理者用）	（旧：知的財産法）02～19J・07～19E・SS・SW・B・08～19L生読替